

# 輝け 商店街

盛岡市の専門店・1

日専連名誉講師 富山短期大学名誉教授  
川中清司

## ユニークな活動がいつぱいの着町商店街

空き店舗は一つもない。賑やかさに魅せられた希望店で、店が空いてもすぐに埋まる。

年に二〇〇以上の団体が見学に来る。「ウワー、いつぱい人がいる」と驚きの声をあげる。

協同組合ジョイを設立し、顧客確保に向けて積極活動を展開。ジョイカード（ポイントカード）をテコに広く会員を獲得し、その数は二二万人を超え、対象売上は二〇〇億円にのぼる。

## 伝統と躍動 盛岡の専門店

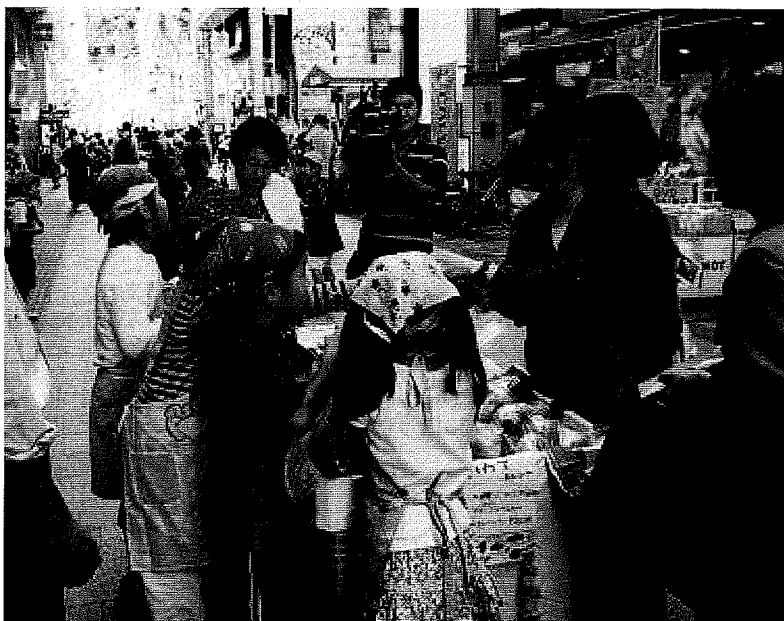
盛岡市内には約40の商店街がある。相次ぐ巨大な郊外大型店の出現やモータリゼーションの影響を受け、地盤沈下で苦戦が続いている。

市内の小売総額はこの10年で10%減った。

平成9年（1997）の4116億円をピークに、平成19年（2007）では3667億円となった。盛岡のイオン系ショッピングセンター3店の売上総額は400億円を上回るとみられ、それを含めてもこの減りようである。中心地商業のダメージの大きさがうかがえる。

その中で、周辺地域の商業核としてユニークな活動を展開し、地域住民の購買支持を得て活気で賑わう商店街がある。

日専連傘下の専門店が展開する、胸のすくような活動ぶりを紹介する。



イベントで賑わう着町商店街

「ホットラインサカナチヨウ」の名で親しまれているこの商店街。バリアフリーで高齢化に対応した。街路の凸面を平らにし、三カ所のトイレは車いすで入れられるように入り口を広くした。

情報誌『ザ・ホットライン』は平成二〇年一〇月で二三五号を数え、新聞折り込みなど、きめ細か

いニュースを提供、TVの生活情報番組の活用も盛んだ。

商店街の会員数は八五名で、特に青年部の活動が活発だ。「青年部の人々がすごくがんばっているんです。『がんばる商店街七七選』に選ばれたり活気が伝わってくるんです」と、ホテルの若い女子社員は手放しでほめる。

## 商店街を飾る 巨大なフラッグアート

アーケードに吊り下げた大きな布。彩り鮮やかに力いつぱいに描かれた絵画。その見事さ思わず立ち止まり目を見張る。二〇年九月から一〇月にかけて行った「盛岡フラッグアート二〇〇八」



大きなフラッグアート  
肴町のアーケードを覆う

街として栄えた街だ。現在もその名を残し、商人の街として伝統が引き継がれている。盛岡城址にほど近く、自然豊かな中津川のほとりで、恵まれた環境にマッチしており、歴史的建造物がずらりと並ぶ。

### 伝統守る盛岡八幡宮 例大祭大売り出し

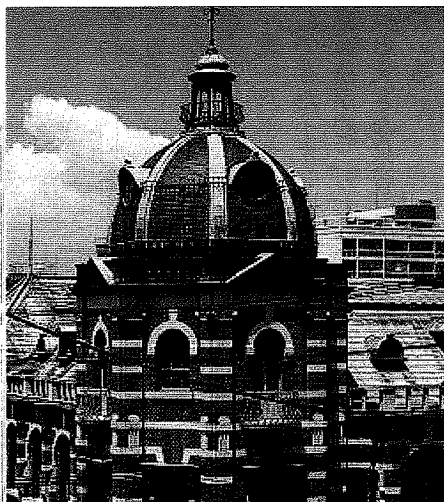
八幡宮祭典は、三二〇年続く盛岡の秋を告げる伝統行事だ。近郊からたくさんの方がお参りに来る。天気が良い日でも農作業を休んで、農家の人が大勢出て来る。各店が工夫を凝らした「例祭大売り出し」に、お買い得を求めて肴町を訪れる。

歌舞伎を題材とした山車、御輿が市内を練り回り、お稚児さん参りの八幡下り、流鏝馬など、今年も九月一四日から三日間行われた。パレードは、八幡宮さんさ、八幡宮社旗を先頭に、大人、子ども神輿に山車九台が続き、多くの市民を魅了した。

### 多彩なイベントを展開し 個店の特徴打ち出す

肴町商店街は、盛岡で唯一の全蓋アーケード街。昭和五八年、商店街の第一号事業で成功させた。玉山哲理事の努力が実った。現在、盛岡商工会議所副会頭で、日専連盛岡の副理事長、まちづくり株式会社社長など多くの公職を担い、精力的に走り回っている。

岩手銀行中ノ橋支店



もりおか啄木・賢治青春館

「こんな盛況は短期間でできたのではない。一五年かかった。市の職員や会議所のメンバーなどと一緒に先進地を勉強するため、積極的に視察に行ったりもした」と

### 歴史と豊かな環境を 活かす

肴町周辺は、藩政時代から商店

「肴町」は、訪れた客で溢れた。実際はホテルのシートそのもので、市内小中学校の生徒がその全面に自由に筆を走らせて描いたもの。肴町青年部が企画し、実行部隊となって推進した。絵の具は(株)平金商店・平野佳則社長(日専連盛岡青年会長)が寄贈した。テーマは「家族・友達」「花・緑・水」「私たちの街」などで公募。はためくフラッグアートに芸術の秋を満喫しようというもの。主催は、盛岡フラッグアート展実行委員会。盛岡市、盛岡商工会議所、肴町商店街振興組合、協同組合ジョイ、盛岡まちづくり株式会社構成メンバー。

岩手銀行中ノ橋支店は、明治四四年(一九一一年)に建てられ、今も現役。東京駅と同じ設計者だが、こちらが早く建てられた。赤いレングに白い花崗岩の帯が鮮やかだ。「もりおか啄木・賢治青春館」は、旧九十銀行で明治四三年に建った。いずれも国の重要文化財に指定されている。

周辺には住宅、マンションが多く、アーケード内に中三デパートがあり、盛岡バスセンターに近く、集客力が強い。購買層は周辺の住民をはじめ、市内の広い範囲に及んでいる。

核店舗の中三百貨店と密接な連携を保ちながら、共同販促を展開し、四季を通じて絶えずユニークなイベントを繰り広げる。生活の節目に結びつけ、季節の移り変わりを味あわせ、市民は新しい空気



肴町商店街の賑わい

店や郵便局に引き出しに来て、肴町を散策してくれる。人が人を呼ぶ。会えて、語りあがでる。「元気をもらええる商店街」と、市民の人気を呼んでいる。毎月、イベントが開催され、途切れる月はない。

- ・肴町初売りイベント
- ・肴町節分祭
- ・肴町ほっとイベント(キッズクラブ卒業式・卒業証書授与式等)
- ・肴町春まつり
- ・ゴールデンウィークフェスティバル
- ・4S会ゴーゴーキッズ子どもフェスティバル
- ・チャグチャグ馬コ祭り
- ・肴町夏祭り
- ・盛岡七夕祭り
- ・夜の八幡参り
- ・盛岡フラッグアート展
- ・「犬猫の譲渡会」動物のちの会岩手キッズマート
- ・肴町・ジョイ・中三合同大えびすセール
- ・「肴町らっぱ隊」のクリスマスパレード

玉山さんは振り返る。玉山さんは、株式会社東山堂の社長。明治初期創業の初代玉山慶次郎さんから、定次郎↓潔↓哲さんと続いて、今が四代目。宮沢賢治も書籍を求めに訪れたという由緒ある店。書籍、楽器など幅広く取り扱い、テナントを含め一〇店舗を経営している。

「モノを安く売るだけではダメ。地域ぐるみで、どこまで住民のために尽くせるかだ」とこれからの商業界のあり方に意気を示す。隔月の一五日は年金の支給日で、高齢者で賑わう。ここの銀行の支

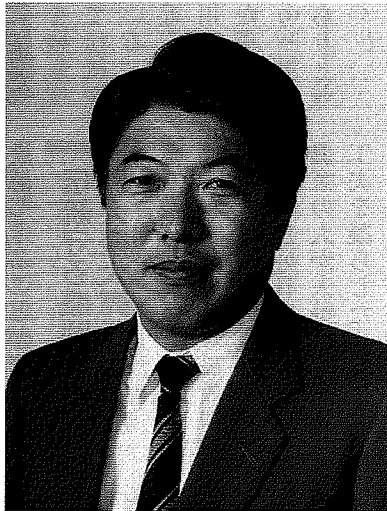
店や郵便局に引き出しに来て、肴町を散策してくれる。人が人を呼ぶ。会えて、語りあがでる。「元気をもらええる商店街」と、市民の人気を呼んでいる。毎月、イベントが開催され、途切れる月はない。

### 続出する郊外巨大商業集積 中心市街地に大きな影響

からの目標は、こうしたユニークな活動を継続展開することで、大型店にはない、商店街でしか出せない「風土と生活の実感」を市民に味わってもらうことだ。個店が専門店としての特徴を磨く。具体的には、商品の構成、店舗展開、顧客サービスに工夫を重ねる。組織としての力を充実させる。特に青年部の結束と積極活動によせられる期待は大きい。

盛岡の商業は決して平穏ではない。郊外の開発地域などに、巨大な大型商業集積が続々と進出し、中心市街地に大きな影響を及ぼしている。

前潟地区に平成一五年に進出し



抱負を語る玉山哲氏・盛岡商工会議所副会頭

たいオンモール盛岡は、店舗面積約三万四〇〇〇平米。年間八〇〇万人が訪れ、売上額は二〇〇億円を超える。

平成一八年九月、さらに盛南地区にできたイオン盛岡南SCは、店舗面積が約三万七〇〇〇平米で、もっと大きな集客と売り上げをあげている。

その上、玉山地区に平成一九年七月にオープンしたイオンSC渋民は、約一万七〇〇〇平米、マックスバリュウー、ホームックなどを合わせれば約一万二〇〇〇平米となる。

平成一七年の暮に国道四六号線盛岡西バイパスが国道四号線に直結したことで、交通便利性も拡大され、集客要件が大きくプラスとなった。

こうした新しい強大な商業集積により、今後はSC間での競争と盛南という新拠点と中心市街地の熾烈な競争で、三つどもえの争いが激しく繰り広げられていく。

### 盛岡の小売総額・店舗数は ともに減少

盛岡市の商圈構造は、この二〇年で大きく変化した。小売販売額は一・八倍に増えた

盛岡市の小売販売額・店舗数

	昭和54年 (1979)	平成9年 (1997)	平成14年 (2002)	平成19年 (2007)
年間小売販売額 (億円)	2,143	4,116 (1994年)	3,899	3,667
小売店舗数(店)	3,154	3,472	3,020	2,851

が、平成九年(一九九七)の四一六億円をピークに減少傾向をたどり、平成一四年(二〇〇二)には三八九億円に減った。

店舗数はピークの平成六年(一九九四)の三四七二店から、平成一四年には四五〇店も減って三〇二〇店となった。

こうした商業構造の変化の大きな原因は、著しい郊外大型店の増加にある。イオンが占める店舗面積は、盛岡市の小売店舗面積全体の二五・八%を占める。イオンの

関連会社を含め、地域経済の中の位置づけは高まり、イオン城下町とも噂されている。

従来はワンストップショッピングの便利さなどから、どちらかといえばSC歓迎の傾向が強かった消費者サイドからも、盛岡の商業のバランスを求める声が聞かれる。省エネや環境汚染防止の立場から、大型店過剰の見方も強まっている。

こうした中で、このほど国の認可を受けた「中心市街地活性化基本計画」への期待は高まっている。

### 盛岡の中心市街地の再生へ 活性化計画を国が認定

盛岡市の中心市街地活性化基本計画は、平成二〇年七月、国の認定を受けて、平成二四年までの五年間の活動が始まった。

計画面積は中心部の約二一八〇を指定。総事業費は約二二〇億円にのぼる。「にぎわいあふれる中心市街地」や「訪れたいくなる中心市街地」などを目標に掲げて、六四事業を決めた。市関連では、道路整備など四二事業。民間事業では、中ノ橋通一丁目の盛岡バスセンターや中三百貨店の建て替え、大通三丁目の商業ビル建設など二

二事業を定めた。

### 求められる調和発展 長期ビジョン見直し

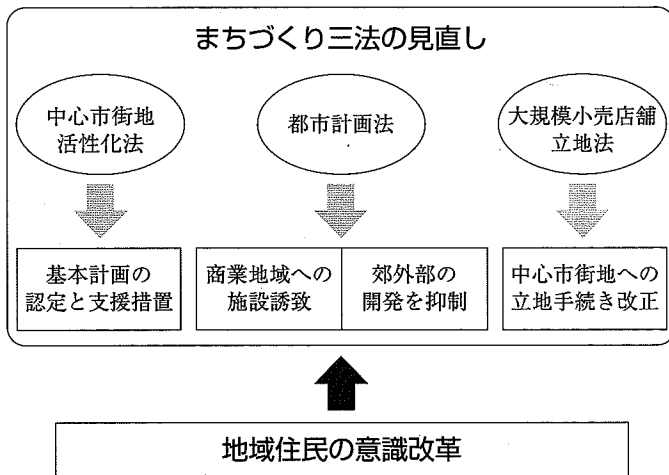
平成二四年度末までに、中心市街地の小売年間販売額は八六九億三九〇〇万円を目標とし、平成一九年度の八一六億五九〇〇万円より六%強の伸びを目指す。一日あたりの歩行者・自転車の通行量は五万一〇〇〇人、年間観光客の入り込みは三七二万人を目標としている。

しかし、郊外の盛南開発が進められる中で、進出した大型店が中心市街地に及ぼす影響は大きい。今後、郊外開発地域と中心市街地がどのようにしたら、調和のある相互発展ができるかが大きな課題となっている。

あらためて抜本的な盛岡のまちづくり長期ビジョンを見直し、行政と市民が一体となった取り組みが求められている。

### 地域再生は住民の 意識改革が大前提

平成一八年、まちづくり三法が見直された。まず、



中心市街地活性化法が改正された。市町村の立てた基本計画をもとにして、活性化本部による基本計画が認定されると、受けられる各種の支援措置が拡充された。

都市計画法が改正された。商業地域への施設誘致と、郊外部の開発が抑制される。

大規模小売店舗立地法の運用が改正された。中心市街地への立地手続きの省略と期間が短縮された。しかし、地域活性化はこうした

法律の整備にもまして、地域住民の意識の改革が大きな原動力であることを忘れてはならない。

## 商店街に無料駐輪地帯 安全利用に市条例制定

盛岡市内では、着実にまちなか改革が一つずつ進んでいる。市内大通り商店街など三方所に、約八〇台分の無料自転車駐輪場が設けられ、九月二五日から利用が可能となった。いずれも利用時間は二

四時間。

城址公園に接する菜園・大通、東大通に総延長七四〇メートルの自転車走行レーンを確保した。車道、歩道、自転車走行路を区分するよう縁石が設けられている。駐輪地帯には白い斜線が引かれ、ここに駐輪できる。目立つように自然石舗装してアスファルトと区別するという工夫が凝らされている。工事は七月から着手され、事業費は一〇五〇万円。市は自転車の

安全利用および放置防止に関する条例を制定し、この四月から施行している。

吉田莞爾・大通商店街協同組合理事長は「自動車と自転車の両方で来られる便利さで、お客さまをお迎えできる」とこれからの利用促進に期待をかけている。

## 「わが店祭」で 専門店が大集合

「専門店が扱うのはこだわりの逸品だ。それを一堂に集めてお客さまに知ってもらおう。

それを中心市街地の活性化につなげよう。それを実現するために「わが店祭」が、日専連盛岡青年会が中心になって進めて、大勢の観客で賑わった。日専連盛岡が主催、(株)日専連パートナーズが協賛した。期間は平成二〇年二月の三日間、展示会場は会員の平金商店パステル館。参加した一五の専門店は、それぞれ自慢の逸品を持ち寄り、地元専門店が推薦する商品の良さを体験してもらった。

平野佳則日専連盛岡青年会長は「たくさんのお客さまが来られて、専門店の品の良さを知ってもらえ、つながりがあった。これからも継続して開催していきたい」と話す。展示では、「染色ギャラリーこうや」が、東京六大学の野球を絵柄にした大正時代の羽織の裏地を展示し、男のモダンを味あわせた。

「ホビースクエアにしな」は、ラジコン、ミニカー。「和のくらし小袖」では、唐草とジャズをイメージした手ぬぐい。「藤村仏具店」は、洋風で狭いスペースに置ける仏壇を展示した。「平金商店

パステル館」は、県産材を使用したオリジナル・コップ。「花月堂」は、手作りケーキ。「スガハラ靴店」



平野佳則・日専連盛岡青年会長

は、オーダーメイドの靴。「アカシヤ」は、簡単に設置可能な電動カーテン。「サイクルセンター山口輪店緑が丘店」は、電動ハイブリッド自転車。「カメラのキクヤ」は、デジカメで撮影した写真のプリントのユニークな活用方法を紹介した。

このほか、プレタわかまつ、ブティック・アンジェニイ、まつばや、村源薬局、鍵屋など、いずれも一押し逸品を披露した。

会場では参加店で使えるクーポン券を配布した。また、参加店のスタンプを集めると抽選で一〇人に日専連商品券三〇〇〇円をプレゼントした。

(続く)



自転車歩行空間のブルーゾーン。盛岡城址公園の菜園側に設置(平成20年9月26日付盛岡タイムスより)